

救急救命士によるファーストコンタクト 病院前救護の観察トレーニング



執筆：郡山 一明，竹中ゆかり

B5 頁116 2006年
定価 2,625 円(本体 2,500 円+税 5%)
[ISBN 4-260-00225-2]医学書院刊

病院前救護には3つの決定的特徴がある。それは悪条件であること、医療資源が限られていること、そして移動を前提とするということである。したがって、優先順位に基づいた的確な観察と処置が現場活動の骨格となる。この特徴は医療機関内の救急発現場においても基本的には同じである。

本書はこのような特徴をもつ病院前救護において、救命に必要とされる観察と基本的手技の実施法のポイントを極めてわかりやすく説明している。心拍出量の説明では“マヨネーズ”を、肺の酸素化障害の説明には“回転寿司”を例えている。“影絵”，“お年玉付き年賀葉書”，“ピサの斜塔”，そうそう，“山手線”も出てくる。誰にでもイメージしやすい“例え”のなかで、観察・処置のエッセンスを的確に紹介している。そして、後

半には習得した知識の整理とポイントをより鮮明にするために、シナリオトレーニングができるように細かく配慮されている。その卓越した教育手法には敬服する。

さて、個人的な話で恐縮だが、著者の郡山一明氏、竹中ゆかり氏とは2人が麻酔科医として医師の道を歩み始めた頃からの古い付き合いである。麻酔科医は単に“麻酔をかける”のみでなく、気道・循環管理のスペシャリストでなければならない。一方、救急救命九州研修所には全国各地からさまざまなレベルの知識・技能を持った標準課程修了救急隊員や救急救命士が集まり勉学に励んでいる。著者らは病院前救護という特色ある分野において、何を、どのように指導することが、より教育効果が高く、かつ病院前救護の質の向上に繋がるのかということについて模索してきた。

本書は著者らが長年の臨床経験の中で骨身にまで染みついた気道・循環管理のエッセンスを、救急救命九州研修所における指導の中で培われた教育手法に基づいてまとめ上げた集大成と言える。本書は救急救命士、救急隊員のみでなく、臨床研修医や看護師にとっても観察トレーニングの必読書である。そして、教育指導にとっては自らの知識を整理するためのみでなく、効果的な教育手法を学ぶ上での頼もしい参考書となると確信する。